



週間情報



No.0738

発行日 令和7年10月7日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 03-4500-6622

両会の動き

◆ 事務局職員の人事異動について

全国消防長会

このことについて、下記のとおりお知らせします。

記

1 令和7年9月30日付異動

帰任（解嘱）2名

東山 和也

児嶋 勝則

総務部総務課総務第二係長

企画部企画課計画担当係長

東京消防庁へ

東京消防庁へ

2 令和7年10月1日付異動

着任（委嘱）2名

上野 真司

吉田 大輝

総務部総務課総務第二係長

企画部企画課計画担当係長

東京消防庁から

東京消防庁から

消防本部の動き

訓練

◆ 第9回救急技術発表会を実施

諏訪広域消防本部（長野）

諏訪広域消防本部では、令和7年9月9日（火）、救急医療週間の一環として、地域メディカルコントロール協議会と協力し、第9回救急技術発表会を実施しました。

この発表会は、通信指令員の的確な情報聴取と迅速な状況把握能力、救急隊員の病態に応じた迅速な観察能力、関係者への接遇能力の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、119番通報受報訓練から始まり、同協議会に在籍している医師をお招きし、医学的見地からの助言をいただき、運用が予定されている脳卒中と急性冠症候群に関する長野県統一プロトコールへの理解を深めるとともに、観察能力の向上を図ることができました。

今後も傷病者や関係者に配慮した的確な活動を行うとともに、地域住民の負託に応えるよう努めてまいります。



【発表会の様子】

◆ 実車両を活用した交通救助訓練を実施

姫路市消防局（兵庫）

姫路市消防局では、令和7年9月10日（水）、11日（木）の2日間、実車両を活用した交通救助訓練を実施しました。

この訓練は、近年多発している運転操作ミスによる交通事故災害に備えるため、災害対応能力の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、地元企業からご提供いただいた車両を活用し、3パターンを想定した訓練を行うことで、交通事故現場での救助活動の機会が減っている中、特に経験の浅い職員にとって貴重な体験となり、スキルアップを図ることができました。

また、訓練計画を策定するに当たり、当該企業や県・市関係部局と調整を重ねたことで、より実践的で難易度の高い訓練を実施することができたほか、救助隊員の技能の向上に加え、訓練を企画する側の業務調整能力を高めることができました。

今後も訓練を継続し、姫路市の安全・安心な暮らしを確保するとともに、救助体制および災害対応能力の充実強化を図ってまいります。



【訓練の様子】

◆ 「備中地区消防合同訓練」を実施

総社市消防本部（岡山）

総社市消防本部では、令和7年9月13日（土）、解体予定の総社市役所旧庁舎において、備中地区の5消防本部（局）が合同で「備中地区消防合同訓練」を実施しました。

この訓練は、解体予定の総社市役所旧庁舎を活用した実践的な訓練を行うことで、現場対応能力を高めるとともに、備中地区各消防本部（局）との連携強化を図ることを目的として実施したものです。

当日は、宙吊り状態の要救助者の吊り下げ救助および転落要救助者の引き揚げ救助の2想定で、アンカーの確実な設定、安全管理の徹底、人員配置の最適化などを重点に訓練を実施し、技術・知識の向上を図ることができました。

複数消防本部が合同で訓練を重ねることで、相互理解を深めるとともに、大規模災害時や応援出動時における即応性と連携強化に直結することから、今後も、実践的な訓練を継続し、各種災害への対応と市民の安全・安心のため、消防力の強化に努めてまいります。



【訓練の様子】



【記念撮影】

◆ 多数傷病者事故対応訓練を実施

燕・弥彦総合事務組合消防本部（新潟）

燕・弥彦総合事務組合消防本部では、令和7年9月16日（火）、17日（水）の2日間、多数傷病者事故対応訓練を実施しました。

この訓練は、多数傷病者発生時の対応能力の向上を図ることを目的として、これまで2年間にわたり図上訓練を重ね、今回初めて実動訓練として実施したものです。

当日は、約140人が参加し、「バスと乗用車の衝突により多数の傷病者が発生した。」との想定で訓練を行い、臨場感ある実動訓練となりました。

なお、傷病者役として新潟医療福祉大学の学生58人にご協力いただきました。



【訓練の様子】

◆ 「現場で生かす消防用設備等実技研修会」を実施

新潟市消防局（新潟）

新潟市消防局では、令和7年9月18日（木）、消防庁舎および屋外訓練施設において、「現場で生かす消防用設備等実技研修会」を実施しました。

この研修会は、現場活動を担う隊員が活用すべき消火活動上必要な施設およびその他消防用設備についての基本的な知識を習得するとともに、操作方法を理解し、現場での対応や防火対象物の関係者と市民への防火指導などに生かすことを目的として実施したものです。

今後も、さまざまな研修を通じて、職員の知識・技術の向上に努めてまいります。



【研修会の様子】

◆ 解体予定の建物を活用した消防活動訓練を実施

宗像地区消防本部（福岡）

宗像地区消防本部では、令和7年9月15日（月）、18日（木）の2日間、解体予定の木造2階建て一般住宅を活用した消防活動訓練を実施しました。

この訓練は、実践に近い環境下で訓練を行うことで、警防活動技術の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、完全無視界の環境下において、要救助者の検索および救出活動を行いながら、建物の内部構造を把握し、それらを現場本部と他隊に共有することを主眼に置いた訓練を実施し、現場経験の少ない職員にとって効果的な訓練となりました。

今後も、解体予定の建物を活用した実践的な訓練を継続し、災害対応能力の向上に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 茨城県防災航空隊と合同訓練を実施

常陸太田市消防本部（茨城）

常陸太田市消防本部では、令和7年9月19日（金）、茨城県防災航空隊と合同訓練を実施しました。

この訓練は、これから火災期を迎えるに当たり、防災ヘリコプターの有効な活用方法を確認することを目的として実施したものです。

当日は、消火訓練と林野火災を想定した焼損状況調査訓練を実施したほか、消火バケツへの給水要領、状況調査時の注意点などを確認し、実災害に備えた効果の高い訓練となりました。

今後も、関係機関との連携強化を図るとともに、災害対応能力の向上に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 警防本部設置訓練を実施

つくば市消防本部（茨城）

つくば市消防本部では、令和7年9月24日（水）、警防本部設置訓練を実施しました。

当日は、「管内において震度7の地震が発生した。」との想定で、被害状況の把握、発生初期における各担当班の役割、緊急消防援助隊の応援要請について確認しました。

また、茨城県消防安全課および市危機管理課にご協力いただき、災害情報に係る連絡を行うなど、関係機関との連携方法についても確認しました。

今後も、大規模災害発生時の組織力の強化に努めてまいります。



【訓練の様子】

研 修

◆ 火災調査研修を実施

小山市消防本部（栃木）

小山市消防本部では、令和7年9月16日（火）、17日（水）の2日間、消防司令・消防司令補の職員を対象とした、火災調査研修を実施しました。

この研修は、火災調査現場を指揮する立場にある職員の知識・技能の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、延べ72人の職員が参加し、2部構成で研修を行い、第1部の座学では、火災調査の進め方や見分のポイントについて解説しました。

また、第2部のロールプレイング実習では、調査員役が火元関係者役に各種情報や建物の間取りを聴取し、現場図板を作成しました。

今後も、引き続き職員の資質の向上を図るとともに、火災調査体制の一層の強化に努めてまいります。



【研修の様子】

◆ 予防実務研修会(危険物編)を実施

東近江行政組合消防本部(滋賀)

東近江行政組合消防本部では、令和7年9月19日(金)、中島商事株式会社(東近江市)所有の車両を借用し、各消防署の査察・危険物担当職員を対象とした、「予防実務研修会(危険物編)」を開催しました。

当日は、消防法により厳格に規制されている移動タンク貯蔵所について、その構造や付属設備などを実際に確認するとともに、立入検査時における着眼点を学び、移動タンク貯蔵所に関する危険物規制への理解を一層深めることができました。

今後も、火災予防に関する専門的な知識と技能の向上に努めるとともに、地域住民の皆さまの安全・安心の確保に全力で取り組んでまいります。



【研修会の様子】

その他

◆ 救命協力者に消防局長から感謝状を贈呈

水戸市消防局(茨城)

水戸市消防局では、令和7年9月9日(火)、救命協力者の2人に対して、消防局長から感謝状を贈呈しました。

本事案は、同年5月20日(火)、市内の事業所において、心肺停止となった女性に対して、付近にいた救命協力者の2人が連携し、AEDを活用した除細動と的確な胸骨圧迫を行い、救急隊に引き継いだものです。

女性は、救急隊到着時には心拍が再開しており、バイスタンダーの途切れることのない救命の連鎖により、搬送先の病院で治療後、後遺症もなく社会復帰しました。

当消防局では、水戸地区救急普及協会と連携し、応急手当普及事業の一環として、救命講習を開催しており、救命協力者の2人は、事業所で当救命講習の受講実績があり、本市の取り組みが実を結んだ事例となりました。



【感謝状贈呈後の記念写真】

◆ 令和7年度和泉市救急標語表彰式および1日救急隊長イベントを実施

和泉市消防本部（大阪）

和泉市消防本部では、令和7年9月13日（土）、和泉消防署において、令和7年度和泉市救急標語表彰式および1日救急隊長イベントを実施しました。

これは、「救急車の正しい使い方」をテーマとした救急標語を和泉市在住・在学の小学生と中学生を対象に募集を行い、入賞された方々（ご家族などを含む）を消防署へ招待して実施したものです。

当日は、消防長からの表彰状授与式と記念撮影会を行ったほか、最優秀賞に輝かれた方を1日救急隊長に任命し、救急車の展示や救命講習を実施しました。

また、救助隊や消防隊と連携し、梯子車の搭乗体験・放水体験も行い、多数の参加者から喜びの声を聞くことができました。

最優秀賞に選ばれた救急標語にあっては、令和8年2月に納車予定の新しい高規格救急車の後部窓に掲示し、運用する予定です。

今後も、当消防本部では、「必要なときに。必要なひとへ。救急車が届くまち」を目指して救急車の適正利用を促進してまいります。



【表彰式の様子】

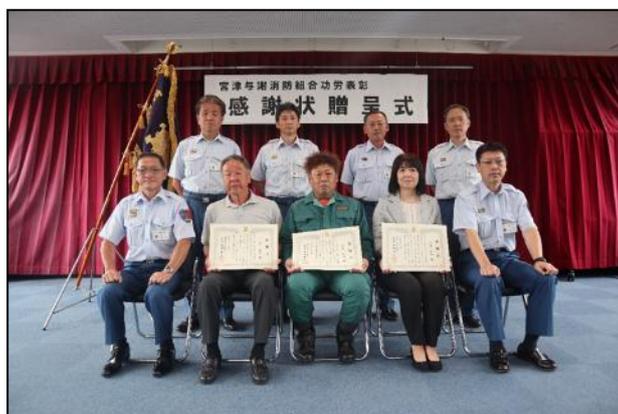
◆ 消防功労者に消防長から感謝状を贈呈

宮津与謝消防組合消防本部（京都）

宮津与謝消防組合消防本部では、令和7年9月24日（水）、消防功労者の4人（1人欠席）に対して、消防長から感謝状を贈呈しました。

本事案は、同年8月1日（金）、管内で発生したその他火災において、消防功労者の3人が連携し、初期消火を行い、付近の山林への延焼拡大を未然に防止したものです。

消防功労者4人の勇気ある行動と迅速かつ適切な判断により、延焼防止と被害の軽減に大いに貢献しました。



【贈呈式後の記念撮影】

◆ 「救急フェア」において世田谷消防署オリジナル缶バッジを配布

東京消防庁（東京）

東京消防庁世田谷消防署では、令和7年9月9日（火）、世田谷区役所において開催した「救急フェア」において、世田谷消防署オリジナル缶バッジを配布しました。

この缶バッジは、応急手当のチェックリストや東京版救急受診ガイドにリンクする二次元コードを記載し、気軽にバッグなどにつけやすい仕様となっており、「いざという時に役立つお守り感覚で使える便利なアイテムを作りたい。」という思いがこもったデザインとなっています。

当日は、区役所を利用する多くの区民の方に応急救護を体験していただいたほか、缶バッジを付けた東京版救急受診ガイドなどを同封したエコバッグを配布しました。

来場者から「レアなものをいただけて嬉しいです。」との声を聞くことができ、救急の大切さを身近に感じてもらえる良い機会となりました。



【オリジナル缶バッジ】



【配布の様子】

◆ 救急の日（9月9日）、地元中学校において救急講習を実施

赤磐市消防本部（岡山）

赤磐市消防本部では、令和7年9月9日（火）、地元中学校において、中学3年生を対象とした救急講習を実施しました。

この講習は、消防のアピールと将来の優良なバイスタンダーの育成、将来の担い手不足の解消を目的として実施したものです。

当日は、心肺蘇生法の入門編として胸骨圧迫に重点を置いた説明と実技指導を実施し、生徒同士で手技の指摘やリズムのアドバイスをし合う場面も見られ、学生の団結力や前向きな姿勢を垣間見ることができ、効果的な講習を行うことができました。

今後も、将来に目を向けた新たな広報活動を実施してまいります。



【救急講習の様子】

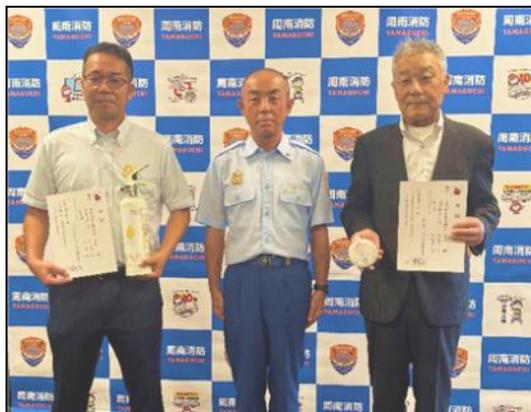
◆ 住宅用火災警報器などの寄贈式を実施

周南市消防本部（山口）

周南市消防本部では、令和7年9月18日（木）、戸田地区および湯野地区の自治会連合会会長に対して、住宅用火災警報器などの寄贈品を目録とともに贈呈しました。

これは、一般社団法人全国消防機器協会から、住宅用火災警報器（100個）、住宅用消火器（25本）、防災毛布（25枚）の寄贈を受けたことから、住宅防火対策を積極的に取り組んでいる両地区に贈呈したものです。

今後は、各地区に居住する75歳以上のひとり暮らしの方に寄贈品を配付し、各自治会、消防団、女性防火クラブの協力のもと設置する予定で、住宅用火災警報器などの普及を通じて、市民の住宅防火に対する意識のさらなる高揚を図ってまいります。



【寄贈式後の記念撮影】



【寄贈品】

◆ 「羽生消防フェア2025」を開催

羽生市消防本部（埼玉）

羽生市消防本部では、令和7年9月23日（火）、「羽生消防フェア2025」を開催しました。

このフェアは、職員とのふれあいや各種体験を通じて、地域の皆さまと交流を深めるとともに、防火・防災に対する意識の啓発を図ることを目的として開催したもので、毎年恒例の行事として、多くの市民の皆さまに親しまれております。

今後も、イベント行事を継続し、地域の皆さまに消防行政や防火の大切さについての理解を深めていただけるように広報してまいります。



【消防車乗車走行体験】



【はしご機能付き消防車搭乗昇降体験】

消防学校からの便り

◆ 帝国繊維株式会社下野工場において「校外研修」を実施

埼玉県消防学校（埼玉）

埼玉県消防学校では、令和7年9月18日（木）、栃木県下野市内帝国繊維株式会社下野工場において、第39期救助科「校外研修」を実施しました。

この研修は、救助活動における車両事故対応技術の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、車両構造に関する座学を行い、最新の車両構造や安全装置に関する知識を深めることができたほか、実車を活用した車両破壊、車両埋没と車両水没を想定した破壊訓練を行い、破壊・救出救助技術を習得することができました。

車両の埋没と水没状態での訓練では、実災害を想定した高度な内容であり、救助科学生にとって貴重な経験となりました。

今後も、現場に即した実践的な研修を通じて、より安全かつ迅速な救助活動の実現を目指してまいります。



【車両破壊訓練の様子】



【記念撮影】

国等の動き

消防庁通知等

◆ 「海外制作会社による国内ロケ誘致等に係る支援」を活用して行う撮影に対する協力依頼について

（事務連絡、令和7年9月24日）

総務省消防庁予防課から各都道府県消防防災主管課、東京消防庁・各指定都市消防本部あてに事務連絡が発出されましたので、お知らせします。

各消防本部等におかれましては、ロケ撮影等に際し関係者が演出等を行うため、火災と紛らわしい煙又は火炎を発生おそれのある行為等を行う場合には、ロケ撮影の円滑化のため、「ロケ撮影の円滑な実施のためのガイドライン」の改定について」（令和7年3月25日付け消防予第125号）を踏まえ、関係機関と密に連携するとともに、特にフィルムコミッションとの窓口の明確化、必要に応じた届出者等への助言及び情報提供の実施など、適切に対応していただいているところです。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/250924_yobou_jimu1.pdf に掲載されています。

消防庁予防課予防係
担当：谷川、中基
TEL：03-5253-7523
Email：yobouka-y@ml.soumu.go.jp

報道発表

◆ 令和7年8月の熱中症による救急搬送状況

(令和7年9月24日、消防庁)

熱中症による救急搬送人員について、令和7年8月の確定値を取りまとめましたので、その概要を公表します。

—以下省略—

- 全文は、消防庁ホームページ

(<https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/606a0de35d729b447a8e52855a7b8806970e0a1b.pdf>) に掲載されています。

【連絡先】 消防庁 救急企画室 救急連携係
担 当：竹田課長補佐、松田係長、三宅事務官
T E L：03-5253-7529
E-mail：kyukyukikaku-kyukyurenkei_atmark_soumu.go.jp
※スパムメール対策のため、「@」を「_atmark_」と表示しております。
送信の際には、「@」に変更してください。

◆ 令和7年度消防設備関係功労者等に係る消防庁長官表彰

(令和7年9月25日、消防庁)

消防庁では、10月17日（金）に令和7年度の「消防設備保守関係功労者」、「消防機器開発普及功労者」及び「優良消防用設備等」に係る消防庁長官表彰を行います。

—以下省略—

- 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/250925_yobou_1.pdf) に掲載されています。

連絡先：消防庁予防課
担 当：佐藤・関・寺澤・城取
電 話：03-5253-7523
メール：yobo_atmark_soumu.go.jp
(注) 迷惑メール防止のため、メールアドレスの一部を変えています。「_atmark_」を「@」に置き換えてください。

情報提供

◆ 令和7年度危険物事故防止対策論文募集について

消防庁・危険物保安技術協会

危険物を取り扱う事業所や消防関係行政機関などで取り組まれている事故防止や安全対策の活動などについて論文を募集します。普段行っている身近な行動に関するものなど、幅広く受け付けますので、皆さまの積極的なご応募をお待ちしております。

1 論文の内容

危険物に係る事故防止や安全対策に関するもので、次のようなもの

- ・提言、アイデア、経験等
- ・事故防止に係わる知見の蓄積・教育方法
- ・事故の分析
- ・最新技術を利用した危険物施設の事故防止対策
- ・職場等の安全対策
- ・事故防止対策・安全対策に関するその他のもの

2 応募締切

令和8年1月31日（土）必着

3 選考方法

学識経験者、関係行政機関の職員などによる審査委員会において、厳正な審査を行います。

4 賞

消防庁長官賞 賞状及び副賞（20万円） <2編以内>

危険物保安技術協会理事長賞 賞状及び副賞（10万円） <2編以内>

奨励賞 賞状及び副賞（2万円） <若干名>

※ 副賞は危険物保安技術協会からお渡しいたします。

5 応募方法

ア 論文は、日本語で書かれたもので未発表のものに限ります。ただし、限られた団体、組織内などで発表された場合は応募可能とします。（一部に限り、既発表の部分を使用する場合は、その旨を本文中に明記してください。）受賞論文は、危険物保安技術協会のホームページに発表されますので、必要に応じて関係者の事前の了解を取ることをお願いします。また、著作権などの問題を生じないようご留意ください。

イ A4（字数換算：1 ページあたり40字×40行程度）1枚以上10枚以内程度としてください。なお、図表および写真は、文中への挿入、本文と別に添付のいずれも可能です。ただし、本文と別に添付する場合に、字数換算をA4（1ページあたり1,600字程度）で行い、全体を10枚相当分以内程度としてください。

ウ 論文の概要を添付してください。

エ 論文は、「論文タイトル」、「氏名（ふりがな）」、「連絡先（住所、電話番号、E-mailアドレス）」および受賞論文発表時に明記する勤務先などがある場合の「勤務先名称及び所属」を記載した用紙を添付のうえ次のあて先（E-mail可）までお送りください。

オ 共同で取り組んでいる活動の場合には、連名の応募も可としますが、代表者が分かるように記載ください。

カ 論文は、返却いたしません。

6 あて先および問い合わせ先

危険物保安技術協会 事故防止調査研修センター

〒105-0001 東京都港区虎ノ門四丁目3番13号 ヒューリック神谷町ビル

E-mail アドレス khk_ronbun@khk-syoubou.or.jp

危険物保安技術協会ホームページ <https://www.khk-syoubou.or.jp/>

協賛 全国消防長会、一般社団法人日本化学工業協会、石油化学工業協会、石油連盟
電気事業連合会、一般社団法人日本鉄鋼連盟、一般社団法人日本損害保険協会
公益社団法人日本火災学会、全国石油商業組合連合会（順不同）

◆ 令和7年度消防用設備等講演会（オンデマンド配信）の開催について

主催：一般財団法人日本消防設備安全センター

後援：全国消防長会

消防用設備等講演会は、消防用設備等に関する新しい知識・技術などについての理解と消防用設備等の適正な設置についての認識を更に深めていただくことを目的として、総務省消防庁、関係団体などのご協力を得て、毎年、消防用設備等に関する動画を配信します。

講演内容	講演者
1 挨拶	日本消防設備安全センター 理事長
2 日本消防設備安全センターの最近の動き	日本消防設備安全センター 専務理事
3 最近の予防行政の動向	総務省消防庁予防課
4 「泡消火設備について」	日本消火装置工業会
5 特殊消防用設備等及び消防設備システム評価事例	日本消防設備安全センター

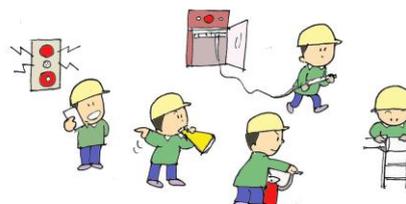
配信期間	令和7年10月6日（月）から令和8年6月30日（火）まで
募集対象	消防用設備等の設計者・施工者・点検者・消防職員など
配信場所	日本消防設備安全センターホームページ 違反是正支援センター 消防用設備等講演会ページ内 https://www.fesc.or.jp/ihanzesei/symposium/ 
聴講方法	<ul style="list-style-type: none"> ・聴講を希望される方は、ホームページから登録をしてください。 ・配信及び聴講要領については、登録者に対し個別にメールにて送付いたします。 ・登録者については、配信期間中いつでも聴講可能です。
参加費	無料

【違反是正支援センターからのお願い】

聴講後、アンケートへの回答をお願いします。

アンケート内容を参考にし、今後の消防用設備等講演会などの違反是正支援センターにおけるさまざまな事業において反映させていきたいので、ぜひご意見ください。

例 ○○に関する講義を聴講したい、○○に関するリーフレットが欲しいなど。



◆ 違反是正講演等動画配信事業（オンデマンド配信）

主催：一般財団法人日本消防設備安全センター

後援：全国消防長会

違反是正支援事業の一環として、総務省消防庁、各消防本部などのご協力を得て、消防職員限定で違反是正講演等の動画を配信します。

講演内容		講演者
基調講演	1 「予防行政の動向」	総務省消防庁予防課
	2 「合理的な査察実施体制の構築」	千葉市消防局
	3 「消防用設備等の点検が未報告の共同住宅に対する是正指導について」	福岡市消防局
	4 「違反是正への3つの取組み」	熊本市消防局

令和6年度消防法令違反是正事例発表会 事例発表動画（順不同）

札幌市消防局、十日町地域消防本部、東山梨行政事務組合東山梨消防本部、名古屋市消防局、湖南広域消防局、豊岡市消防本部、広島市消防局、徳島中央広域連合消防本部、熊本市消防局

※ 配信期間中は、令和5年度違反是正事例発表動画（令和6年度配信事業）全8本部もご聴講いただけます。

配信期間	令和7年10月6日(月)から令和8年6月30日(火)まで	
募集対象	消防職員限定	
配信場所	日本消防設備安全センターホームページ 違反是正支援センター 違反是正講演等動画配信事業ページ内 https://www.fesc.or.jp/ihanzesei/zesei_symposium/index.html	
聴講方法	<ul style="list-style-type: none"> ・聴講を希望される方は、ホームページから登録をしてください。 ・配信及び聴講要領については、登録者に対し個別にメールにて送付いたします。 ・登録者については、配信期間中いつでも聴講可能です。 	
参加費	無料	

【違反是正支援センターからのお願い】

聴講後、アンケートへの回答をお願いします。

アンケート内容を参考にし、今後の動画配信事業などの違反是正支援センターにおける様々な事業において反映させていきたいので、ぜひご意見ください。

例 ○○に関する講義を聴講したい、○○に関するリーフレットが欲しい等。



令和6年度消防法令違反是正事例発表会 事例発表動画			
番号	支部名	消防本部	内容
1	北海道	札幌市消防局	消防法第17条の4第1項に基づく命令を行った事例について
2	東北	十日町地域消防本部	所有者がいない防火対象物の違反是正事例
3	関東	東山梨行政事務組合 東山梨消防本部	初の命令を実施した事例
4	東海	名古屋市消防局	警察との連携による未届けの有料老人ホームへの違反処理
5	東近畿	湖南広域消防局	重大違反が遷延する非特定防火対象物に対し告発に至った事例
6	近畿	豊岡市消防本部	店舗併用住宅の敷地内に新築した防火対象物を接続していた違反是正事例
7	中国	広島市消防局	消防法第5条第1項に基づく火災予防措置命令について
8	四国	徳島中央広域連合消防本部	自動車整備工場における違反是正について
9	九州	熊本市消防局	消防法第5条の3命令で行政手続法に基づく事前手続を行った事例

令和5年度消防法令違反是正事例発表会 事例発表動画			
番号	支部名	消防本部	内容
1	北海道	夕張市消防本部	重大違反の是正事例
2	東北	気仙沼・本吉地域広域行政事務組合消防本部	違反処理完結後の火災奏功事例
3	関東	志太広域事務組合志太消防本部	(6)項(1)の福祉施設(有料老人ホーム)の開設に伴うスプリンクラー設備等の未設置違反を覚知した早期是正事例
4	東海	豊田市消防本部	消防用設備等の大部分が重大な機能不全である旅館に対する違反処理事例
5	東近畿	福井市消防局	重大消防法令違反對象物に対する公表及び違反処理
6	近畿	枚方寝屋川消防組合消防本部	SNSをフル活用～新時代の違反処理～
7	四国	仲多度南部消防組合消防本部	サバゲー施設の違反処理
8	九州	沖永良部与論地区広域事務組合消防本部	離島のハンデを乗り越えた 小規模本部が実施する違反処理と覚悟

機関誌「ほのお」記事募集

一般財団法人全国消防協会では、機関誌「ほのお」に関して、各消防本部より次の投稿記事を募集しています。

①トップ・セカンド記事

②知識・技術の伝承—教えて！消防技術—

③女性職員の活躍推進

※①・②・③の執筆要領等の詳細は、週間情報（No.0716）1ページ、機関誌「ほのお」2025年4号（4/25発刊）29ページを参照願います。

TEL：03-4500-6622 機関誌「ほのお」担当：企画課 中西

原稿データは、kikakoho@fcaj.gr.jpに送信願います。

④消防ワイド

【特徴】

- ・写真中心のビジュアルな広報
- ・紙媒体により記録性に優れる広報

【留意事項】

- ・文章は、Wordで100文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、Wordに貼り付けず、JPEG画像データを1枚送付してください。
- ・消防ワイド、週間情報の両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。

TEL：03-4500-6622 機関誌「ほのお」（消防ワイド）担当：企画課 中西

原稿データは、honoo@ffaj-shobo.or.jpに送信願います。

ご投稿をお待ちしております。

※添付ファイルの容量が5MBを超える場合は、分割して送信願います。

週間情報への投稿は企画課へ！

週間情報では、各消防本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せください。

【特徴】

- ・原則毎週刊行される、速報性のある広報
- ・文章中心の情報量が多い広報

【留意事項】

- ・配信日（原則火曜日）から前2週間以内のイベント、訓練等を中心に掲載しています。
- ・文章は、Wordで200～400文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、1～2枚をWordに貼り付けて送付してください。
（貼り付けできない場合は、JPEG画像データを送付してください。）
- ・週間情報、消防ワイドの両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。
- ・掲載が決定した場合のみ、担当者からメールを返信させていただきます。

TEL：03-4500-6622 「週間情報」担当：企画課 吉田

原稿データは、weekly@fcaj.gr.jpに送信願います。